

「“霊”はイエスを荒れ野に送り出した」（マルコによる福音書1:9-13）

大齋節最初の主日の福音は、「荒れ野の四十日」です。大齋節と同じ四十日です。大齋節の四十日間、わたしたちは「荒れ野」にとどまります。荒れ野とは、人間が孤独や不安に出会う場所です。しかし同時にそのような場所だからこそ、神の近さを感じる場所です。モーセや預言者たちが神と出会ったのが「荒れ野」であったように、わたしたちもこの四十日間、「荒れ野」で過ごすことで、あらためて神と出会います。

聖霊は神の力です。「荒れ野」へと主イエスを送り出したのは神でした。「送り出した。」と訳されている単語は、「力づくで追い出す」という強い意味を持っています。神は聖霊によって荒れ野へと主イエスを力づくで追い出したのです。そこには「荒れ野」から悪霊を追放しようとする神の強い決意、堅い決意が表れています。

「荒れ野」とは一体どこでしょうか。それは「野獣と一緒におられた」ということに表されています。野獣とは人を脅かす存在です。つまり荒れ野とはわたしたちの日常、人間の日常そのものを象徴していると言えます。わたしたちの日常には、わたしたちを脅かすような力、存在が溢れているからです。「荒れ野」は主イエスを守ろうとする天使たちと、主イエスを滅ぼそうとするサタンが激しく戦う、しのぎを削る場所でもあります。主イエスは野獣の住む荒れ野でサタンの試みを受けます。サタンはそこで神から離れさせるあらゆる誘惑で主イエスを試みるのです。神がどうしてそのようなことをお許しになっているのかと言うと、この誘惑との関わりを通して、主イエスが神との関わりを確認し、自らの使命を自覚するためです。「あなたはわたしの愛する子」と呼びかけられた主イエスには、果たすべき使命があるのです。それはサタンに勝ち、神の国、神の支配の到来を示すことです。そのために、サタンの試みの間、四十日間ずっと天使たちが仕えていました。「荒れ野」とはサタンが試みる場であると同時に天使たちが仕える場、試みる者と仕える者とが共存する場なのです。まさにそこはわたしたちの生きる日常に他ならないのです。

わたしたちの日常、現実もサタンが働くと同時に、天使たちが仕える場でもあります。サタンと天使が共存し、善と悪が拮抗しているのです。そのようなところだからこそ、人間は様々な試みを受け、神に対する忠実さや思いが試されま

す。主イエスはその試みをわたしたちに先立って担われました。主イエスが荒れ野で試みを受けたのは、同じ荒れ野で生きるわたしたちを励まし、慰めるためだったのです。だからこそ、わたしたちを支え、仕えてくださるのは天使だけではありません。今日荒れ野にて自らの誘惑を受けられた主イエスこそが、わたしたちとともにおられ、仕えてくださるのです。そのためにこそ、聖霊は荒れ野へと主イエスを追い立て、この世界、わたしたちの現実における神の救いを実現する道を開かれました。

聖霊によって追い立てられ、天使によって仕えられた主イエスは、サタンに勝利することが自らの使命だと知り、人間が住む世界、「荒れ野」へと向かっていきます。「荒れ野」を人が生きる場とするために、主イエスは福音を宣べ伝え、わたしたちが生きることができる場所へと「荒れ野」を変えていくのです。これから主イエスが向かうのは十字架です。今日の使徒書（ペトロの手紙Ⅰ）は、正しくない者であった人間を「神のもとへ導く」ために、キリストはただ一度十字架上で苦しめられたと証言します。そればかりかキリストは、「捕らわれていた霊たちのところへ行って」宣教した後（使徒信教の「陰府に降り」と重なりますね）、「天に上って神の右におられる方」であることまでもわたしたちに伝えていきます。死んで復活し、昇天する主イエスを通して、死者をも救われることが明らかにされているのです。今日の旧約聖書に登場したノアの洪水は、「地上の人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計り...この地は会の前に墮落し、不法に満ちていた」からです。このことがわたしたちに示すことは、いつの時代の社会も神の言葉から離れてしまう「荒れ野」だということです。しかしノアの時代に神に不従順であった人間にまでも、主イエスが「捕らわれていた霊たちのところへ行って」宣教することで、救いがもたらされるのです。それこそ、「二度と滅ぼさない」と約束された神による約束の実現に他なりません。主イエスが苦しめられたことが「ただ一度」であったのは、キリストのもたらす実りがノアの洪水の時代の者にまでも及ぶ、時間と空間を超えた「ただ一度」ですむ完全な苦しみだったからです。こうして、ペトロへの手紙の著者は、主イエスによる救いの普遍性を伝えています。神に背いた、神から最も遠い者のもとへも赴かれる主イエスが、「荒れ野」に生きるわたしたちのもとへも来られ、共におられるのです。

サタンはこの世を「荒れ野」に留めておくために、主イエスにそうしたよう

に、わたしたちのことをも誘惑します。たしかに、「荒れ野」は変わらずわたしたちの日常です。けれども、わたしたちが生きる「荒れ野」には、天使も主イエスも伴ってくださっているのです。これから歩む四十日間、わたしたちが受ける試みも主イエスと共に歩むとき、神とのあらたな出会いへと導くものへと変えられます。試みが神への信仰を告白するチャンスへと変えられるのです。自分の命のすべてを賭して、「荒れ野」に生きる被造物すべてを、生も死も、時空をも超えて救いへと導く主イエスがわたしたちと共におられます。わたしたちと共におられる天使と主イエスとが、いつでもサタンの試みを神との出会いのチャンスへと変えてくださることを信じて、この四十日間を歩んでまいりましょう。